

大河原小

学校を支える 伝統の鼓笛



これがイチオシ

毎日あいさつ はきはき

大河原小学校はあいさつが自慢です。鼓笛のようにずっと受け継がれてきた伝統です。廊下で友達や先生、来校した方々とすれ違ったときはあいさつをします。あいさつの輪を地域にも広げられるようにしています。

あいさつのポイントは、目を見ておじぎをすることです。学校では新聞JRC委員会があいさつ運動などを行ってあいさつの質を高めています。これからも、地域の人や学校のみんなが気持ちのよい1日を送れるように毎日欠かさずにあいさつをします。

学校名 大河原町立大河原小学校
所在地 大河原町字町100
創立 1873年
番号 0224(52)3401
校長 高橋 秀夫
児童数 793人

大河原小学校では、毎年6年生から5年生へと鼓笛が引き継がれています。私たちは、1年生のときからずっと6年生の演奏する鼓笛を見てきたので、鼓笛を受け継ぐ日を楽しみにしています。指揮を中心に、演奏する楽器はリコーダー、鍵盤ハーモニカ、アコーディオン、打楽器、シロフォン、グロッケン、そして全体を華やかにするフラッグです。



運動会での鼓笛隊

編集委員 植田咲空、広岡琉苒、佐藤悠雅（6年）
指導教員 進藤緑里

演奏フラッグきびきび

わが校わがまち スクール通信



今回は
鳴瀬桜華小(東松島市)
人來田小(仙台市)

スマイル交流会で仲良し

錦ヶ丘小

学校の雰囲気ばかばか

錦ヶ丘小学校は、児童数がとても多い学校です。たくさんの人と仲良くなれるように、児童会主催の「スマイル交流会」という異学年交流を行っています。1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生が少人数のグループを作り、朝の活動時間に交流します。



優しく笑顔いっぱい スマイル交流会

編集委員 大山花穂、西坂逢里、近藤風史（6年）
指導教諭 阿部隼也



これがイチオシ

カレーの日はにこにこ

私たちの学校のイチオシは「給食」です。校内にある給食室の皆さんが作ってくださった温かくて栄養いっぱいの給食を毎日食べることができます。

給食の時間に、今年度からは新しい取り組みが始まりました。それは、カレーライスの日、クラスみんなで机を合わせて楽しく給食を食べる「にこにこ給食デー」。みんなで食べるカレーライスは、いつもよりおいしく感じられます。毎日おいしい給食が食べられることに感謝して、これからも元気に学校生活を送ってまいります。

学校名 仙台市立錦ヶ丘小学校
所在地 仙台市青葉区錦ヶ丘7の28の1
創立 2015年
電話 022(395)5582
校長 小原 貴之
児童数 888人

詩・紀行文 朗読でしのぶ
女川で光太郎祭

ギターの調べに乗せ、朗読が披露された光太郎祭

1931年に女川町などを旅し、詩や紀行文を残した詩人で彫刻家の高村光太郎（1883～1956年）の功績をしのぶ第34回光太郎祭が9日、女川町まちなか交流館であり、来場した約50人が詩や紀行文の朗読に聞き入った。ギタリスト宮川菊佳さん（千葉県）が奏でる旋律に乗せ、11人がそれぞれ詩や紀行文を情感を込めて朗読した。「智恵子は東京に空が無いといふ」で始まる詩「あどけな

い話」は石巻市万石浦小5年の佐藤結土さんが担当。僕の前には道はない、僕の後ろには道は出来る。で知られる詩「道程」を女川一中3年平塚功竜さんが読み上げた。主催の「女川・光太郎の会」は3月、県から「住みよいみやぎづくり功績賞」を受けた。須田勘太郎会長は「朗読を聞きながら」光太郎さんが旅した90年以上前の女川を想像してほしい」とあいさつした。

あなたの言葉を

辻村 深月 著
毎日新聞出版



モヤモヤ置き換え心整理

いらいらする。何だか嫌だ。おかしいと思う。でも、理由は説明できない。そんなもどかしさを経験したことはありませんか？ このエッセイでは、そんなモヤモヤした感情を「あなたの言葉」に置き換えてみよう、と提案しています。著者は、『かがみの孤城』など多くのベストセラーを書いている小説家・辻村深月さんです。

辻村さんは学生時代、運動が苦手な学生時代の、運動が嫌いでした。しかしある時、何が「嫌い

で何が「苦手」なのか自分の言葉で考えたところ、苦手だけど好きなこともあると気づきました。そして運動の「好き」な部分だけを楽しめるようになりました。

このように自分の気持ちを言葉に置き換えようとする事で、感情が整理され、やがてその言葉が自分を支える武器となります。辻村さんの言葉を手掛かりに、あなたの言葉を見つけてみませんか。中学生から。（宮城県図書館 勝守雅子さん）

